

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

現在の定時制の課程は、これまでの勤労青少年の後期中等教育機関としての役割とともに、全日制高等学校中途退学者や不登校経験者、学習障がい等がある生徒等、さまざまな学習目的や動機を持つ生徒の学び直し場として、また、社会人の生涯学習の場としての機能も果たしている。こうした状況を踏まえ、社会の有為な形成者としての基礎を培う全人教育並びに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活のリズムを乱さない等、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

本校に入学する生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応し、生徒が望む学習と幅広い進路選択ができるよう多様な選択科目を設け、必要な教科で少人数授業を実施するなど教育課程編成の工夫に努める。また、適切な授業規律の中で授業内容や指導方法、学習教材を工夫することにより、生徒の基礎学力の定着を図る。さらに科学的な視点で考え問題を解決する能力やコミュニケーション力の向上をめざす。また、社会の変化や生徒・保護者等の意見やニーズを踏まえて、生徒が社会で必要とされる学力を身につけられるよう、本校の教育システムの更なる改善・充実に努める。

## 2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

学年制の良さを活かした学校生活、ホームルーム活動をはじめ学校行事や部活動などの活性化を図ることにより、個々の生徒の自主性を高め、生徒相互の連帯感や協調性を育て、自分自身を、そして、お互いを尊重しあう精神を養う。あわせて、本校で共に学ぶ中で、違いを認め合い共に生きることの大切さを理解させて、人権感覚を養うとともに、種々の人権学習や体験学習を通じて、グローバル社会において自他の人権を守ることでできる人間の育成に努める。

修学の志を持続させるため、全教職員が個々の生徒の課題や背景を踏まえた上で生徒のサインを的確に捉え、きめ細かく、かつ迅速で適切な対応に努める。さらに、家庭との連絡を密にして生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、勤労と勉学が両立できる安定した生活を確立する指導を行い、社会で必要とされる力の育成をめざし、生徒が自己実現を行うための支援に努める。卒業後に進学・就職を希望するすべての生徒の進路実現をめざしての指導に加え、在学中から就労することで規則正しい学校生活を送ることができるよう、多くの在校生が外部機関との連携を図りながら就労の環境整備・指導に努める。

## 3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進

教職員全員が課題を共有し、教職員一人ひとりの能力を最大限に発揮して、自主的・自律的に教育活動を推進するため、機動性と透明性の高い組織体制の改善・充実に努め、組織的・機能的な運営に努める。あわせて、定時制の教育システム等について、授業公開や校外研修に加え、校内研修の実施やOJTにより研鑽を重ね、教職員の資質向上に努める。

学校ウェブページ等を活用し、保護者、雇用主や地域、中学校等に学校の教育目標や教育活動の実施状況などについて、幅広く積極的な情報提供や働きかけを行い、地域とつながる学校づくりを推進する。また、家庭、地域、中学校、関係機関等との相互理解・相互協力による良好で有効な連携体制の構築を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と比して肯定的意見が大幅に上昇した項目は、「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」の 11.8%→95.0%、「学校運営に教職員の意見が反映されている」の 35.3%→85.0%である。</li> <li>・肯定的意見が高い項目は、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」や、「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」の 95.0%などである。</li> <li>・肯定的意見が最も低い項目は、「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の 75.0%であるが、昨年度の 47.1%から 27.9%上昇している。</li> </ul> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的意見の上昇が顕著な項目は、「学校では子どもに関する個人情報を守られている」73.1%→94.7%、「通知表は、子どもの学力や達成度をわかりやすく表すように工夫されている」72.0%→89.5%等である。</li> <li>・「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている」の肯定的意見は 56.0%→52.7%で、授業アンケートの結果（4点法の 3.4P→3.6P）との間に乖離が見られる。解決策の 1 つとして、非常勤講師（本校ではアンケート非実施）との情報共有や指導内容の議論を深めることが考えられる。また、授業に関する教職員の高い自己評価とも隔たりがある。生徒がわかりやすく楽しい授業が実施できるように、さらなる授業改善の取り組み（研修等の実施）が必要である。</li> </ul>	<p>第 1 回（平成 27 年 6 月 25 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○障がい等がある生徒への支援等について</li> <li>・障がいのある生徒も少なくない。多様な生徒が共に学ぶことが大切である。</li> <li>・困難な課題を抱える生徒に対し、学校内外のさまざまな支援が必要である。</li> <li>・教職員を支える専門家を学校教育に取り込める仕組みが必要である。</li> <li>・学校経営計画の中の SC、SSW を活用し外部の NPO などとも連携していくこと。</li> </ul> <p>第 2 回（平成 27 年 11 月 19 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業について</li> <li>・授業により出席者数に偏りがある。1 年に留年が多く、早い段階から欠席を続けている生徒もいるのが課題である。</li> <li>・授業にはたくさんの生徒がいた方がよい。少ない人数では活気が足りない。</li> <li>・講師・介助員・看護師の 3 人態勢で支援している生徒について、他の生徒も自然に受け入れ、ともに学ぶ機会を持つことができている。</li> </ul> <p>第 3 回（平成 28 年 2 月 22 日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○准校長のリーダーシップについて</li> <li>・教職員向け学校教育自己診断の「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」の肯定的意見が大きく向上したことを評価する。</li> <li>○学校経営計画について</li> <li>・学校の目標の中で、何が最重要項目なのか。教職員は、目標の各項目を体系化して理解しておく必要がある。</li> <li>・真に進路希望を実現したといえる卒業生を増やすために、授業をはじめとする教育活動</li> </ul>

## 府立春日丘高等学校

<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は生徒の意見を聞いてくれる」96.4%、「学校に友人がいる」「先生はお互いに協力し合っている」「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」92.9%等、多くの項目で4年次の肯定的意見の割合が際立って高い。</li> <li>・「学校に行くのが楽しい」の肯定的意見の割合が、1年次68.6%、2年次70.0%、3年次62.2%、4年次75.0%、全体68.5%で、授業改善や指導方法の見直し、行事やクラブ活動の充実などをとおして改善する必要がある。</li> <li>・全体で「授業はわかりやすく楽しい」64.1%（3年次54.1%）、「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」67.7%（3年次62.2%）の肯定的意見が低く、課題である。授業内容、相談体制などについて改善する必要がある。</li> </ul>	<p>の充実と、生徒が抱える様々な課題の解決・除去の2本柱が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値だけにとらわれず、質の吟味を怠らないようにしてもらいたい。</li> </ul> <p>○授業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上に資する研修の計画に賛同する。ぜひとも計画どおり実施してもらいたい。</li> <li>・生徒のコミュニケーション能力を高める授業を工夫して実施してもらいたい。</li> </ul>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実	<p>ア 教育課程のさらなる充実</p> <p>イ 授業力の向上</p> <p>ウ 各種資格・検定取得支援(生徒の進路実現・達成感充実)</p>	<p>論理的思考や探究活動に興味・関心を持つ力、自ら調べ考える力、知識・情報をもとに解決方法を見出す力を持つ生徒を育成するための教育内容の研究・実践</p> <p>授業力の向上、「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業の実践・研究</p> <p>相互授業見学週間・公開研究授業の実施</p> <p>ワープロ検定、簿記検定、表計算検定等各種資格・検定への啓発と資格取得支援を推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による研究・発表活動</li> <li>・ICT活用による授業の研究・実践</li> <li>・帰国渡日生徒への支援</li> <li>・授業満足度の向上(アンケート0.1P増)</li> <li>・習熟度別少人数展開講座の開講</li> <li>・授業公開週間及び、研究授業・協議、研修報告会を計年3回開催</li> <li>・検定受検者(前年比5%増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報や商業で生徒どうしの発表・評価などアクティブ・ラーニングの実践がより一層進んだ。(◎)</li> <li>・全普通教室に導入された液晶プロジェクターを多くの教員が効果的に活用し、積極的に授業に取り組む生徒が増えた。(◎)</li> <li>・帰国渡日生徒への外部講師による日本語指導を継続して当該生徒の就学につなぐことができた。中学校からも帰国渡日生徒への指導が高く評価されている。(○)</li> <li>・進級率・卒業率の向上に資するため、三学期制への変更を申請した。来年度も協議を継続する。</li> <li>・授業アンケート結果は全体で3.6ポイントで0.2Pアップした。(◎)</li> <li>・数学、英語で習熟度別少人数展開授業を実質全4学年で実施できた。(◎)</li> <li>・公開授業週間を6月・11月に実施し、相互授業見学を進めた。(○)</li> <li>・4月に授業参観を実施した(家族等の参観者多数)。公開授業で福井高、島本高と相互授業見学を実施(参加者延べ9名)、他に立命館大学の学生、茨木市社会福祉協議会員、子ども・若者自立支援のNPO法人スタッフ、保護者等が来校した。(◎)</li> <li>・魅力的な授業を創造するため、「生徒の視点から授業を見直す」研修を2回(5月、2月)実施した。(◎)</li> <li>・公開研究授業は諸般の事情により実施できなかった。(△)</li> <li>・検定受検者63名→56名(△)(合格者は39名→37名、すなわち合格率は61.9%→66.1%と前年度比6.8%アップした)。</li> </ul>

## 府立春日丘高等学校

2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援	ア 生徒の自主性・協調性・社会性の向上	生徒会、クラス代表等による校内外課題の研修会・交流会の実施 部活動の充実・ボランティア活動の実施 生徒作品や研究成果の公開発表の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会リーダー研修実施年2回</li> <li>他校との生徒会交流会等の開催</li> <li>(自己診断項目)自尊心、達成感等の向上 (H26:3.0P) (0.1P増)</li> <li>部活動参加生徒率の5%増 (H26:42%)</li> <li>行事参加率(H26:57%) (前年比5%増)</li> <li>校内外での生徒作品・研究の公開</li> <li>生徒会のボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会リーダー研修を8月に1回実施した。(△)</li> <li>本校が中心となって企画してきた定時制生徒会交流会が定着。2回実施し、14名が参加した。(○)</li> <li>自己診断結果は4点満点の3.0Pと横ばいであった。(△)</li> <li>部活動加入率は43.9%と微増に留まった。(△)</li> <li>行事参加率 体育祭(57%→58%)、球技大会(61%→57%)、文化祭(55%→54%)、全体56.4%で微減。(△)</li> <li>定通生徒秋季発表大会に作品・音楽部・ダンス部参加。(○)</li> <li>近隣生徒会による合同のボランティア活動を7月から8月にかけて1週間、11月、1月と3回実施した。(◎)</li> </ul>
	イ 基本的な生活習慣の確立	授業規律の確保(校内校外巡回の実施)  登校時、下校時指導  禁煙教育、禁煙支援の充実 食育の推進、健康・体力づくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業日の校内外巡回の実施</li> <li>全登校日に実施</li> <li>喫煙生徒数(H26:15.7%) (前年比10%減)</li> <li>給食喫食者率 (H26:12.7%) (前年比3%増)</li> <li>健康診断等受検率の向上 (H26:87.7%) (前年比5%増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全登校日に実施。毎時間の校外校内巡回で校内喫煙はほぼ皆無。22時45分まで下校指導の実施で外部からの生徒マナーに関する苦情もほぼ皆無を維持できた。(◎)</li> <li>メロディチャイムの導入で、授業開始前の着席が当たり前になり、昨年度までより速やかに授業が開始できるようになった。(◎)</li> <li>ほぼ全員の生徒が登下校時に挨拶している。(◎)</li> <li>生徒の喫煙率は19.8%であった。(△)</li> <li>給食喫食率13.2%で前年比3.9%アップした。(◎)</li> <li>健康診断等の受診率 内科検診は81.8%で下がった。(△)</li> </ul>
	ウ 生徒状況の把握・情報共有、家庭連携	4月を懇談強化月間とし、生徒や保護者との懇談を通して連携協力関係を確立 出身中学校等との連携強化 保護者や中学校教員等の公開授業参観・部活動見学を開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>全生徒との懇談実施</li> <li>年2回開催の中高連絡会での生徒情報交換率の向上</li> <li>年3回計50名以上の保護者・中学校教員等の参加</li> <li>S S Wによる研修・ケース会議を年12回以上開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各担任が、ほぼ全生徒との懇談を実施した。(○)</li> <li>中高連絡会を4・11月に2回実施した。4日間の参加人数は延べ88名(中学校69・適応指導教室7、進路保障協議会7、他5)で、昨年度(81名)比8.6%アップした。(○)</li> <li>授業参観を4/25に実施、家族等の参観者多数。保護者授業参観週間を2回設けた。参加者は延べ100名を超えた。(◎)</li> </ul>
	エ 生徒の自己実現の支援	支援教育委、スクールカウンセラー、S S W等を活用した相談機会・体制のさらなる組織的充実  計画的・系統的なキャリア教育の充実  就労・社会参加意識の醸成 就労が必要な生徒への職業紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導HR(総合的な学習)の実施</li> <li>在校生の就労状況の向上</li> <li>就労支援のための外部機関等との連携による進路指導の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>S S W15回、S C10回の相談研修を実施(◎)</li> <li>フェルマータによる居場所カフェとして「春定なんでも相談室」を4月から開設。60回実施し生徒延べ220名(H26:218名)、保護者・教員15名(H26:31名)が活用。(○)</li> <li>「障害者差別解消法」に係る研修を1回実施した。(○)</li> <li>各年次でL H Rで外部講師や校外体験などキャリア教育を実施した。(◎)</li> <li>1年次の就労率が15%(4月)から61.8%(2月)にアップした。(○)</li> <li>学校斡旋の就職希望者内定率は100%を維持した。(○)</li> <li>N P O「D×P」と連携した授業を、1年次で4回、2年次で4回実施した。(◎)</li> </ul>

## 府立春日丘高等学校

3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進	ア 組織力向上支援のための教職員研修や支援体制の充実(学び合い支え合う雰囲気づくり)	校内初任者等(含常勤講師等)研修の充実 地区初任研、定通初任研等参加奨励 産業医等による支援相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な開催</li> <li>参加可能な体制・調整</li> <li>個別面談、相談機会・体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初任教員は地区や定通校長会主催の初任者研修にも参加しスキルをアップさせた。(○)</li> <li>産業医による健康相談を毎月実施した。(○)</li> </ul>
	イ 学校運営組織の活性化・効率化	P D C A サイクルを活用した校務運営活性化 I C T 活用による一層の校務の効率化 問題事象への組織的な対応体制充実 担任、支援教育コーディネーター、S C、S S W 等による生徒支援組織の充実 全日制との連携・協力体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営改善案の企画・推進</li> <li>校内体制・外部連携の充実</li> <li>必要な生徒へのカンセツ、ケース会議の充実</li> <li>全定合同連絡会及び協議会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月に各部・委員会等の中間まとめを作成した。(○) 次年度へ向けて3月に最終報告(総括)を策定。</li> <li>当該生徒への個別支援計画を策定できた。(○)</li> <li>S S W・S Cによる研修、ケース会議等を計25回実施。外部関係機関との連携し課題に迅速適切な解決が図れている。(◎)</li> <li>全定連絡会を3回実施した。来年度の提案に向けて定時制のロッカールーム設置について検討した。(○)</li> </ul>
	ウ 開かれた学校づくりの推進(中高大連携、地域連携)	W e b ページによる情報発信の充実 学校説明会等広報活動のさらなる充実 中高連絡会・学校公開の充実 立命館大学等との新たな連携 地域との交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス数の10%UP(前年度9600)</li> <li>HP週1回の更新</li> <li>学校説明会を年3回実施</li> <li>対象中学校等の拡大(前年度延べ63校)</li> <li>大学連携事業案の検討・企画調整</li> <li>地域イベント参加・公開講座の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数減を反映してかアクセス件数は前年度並みの9600に留まった。(△)</li> <li>HPは平均週1回以上、更新した。(○)</li> <li>学校説明会3回実施 計56名来校。(○)</li> <li>中高連絡会(4・11月)延べ61中学校が来校。(△)</li> <li>立命館大との連携については模索中である。(△)</li> <li>12月、地元中学校イベントへ参加、土曜開講に地域の方々を受講。(○)</li> </ul>
	エ 定時制の学校環境改善の推進	学校教育自己診断(保護者)回収率の改善 振興会の活性化 後援会活動の整備・充実 学校協議会の内容の工夫 教職員防災研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート回収率の向上(H26:13.0%)(前年比10%増)</li> <li>振興会会員の行事来校者10%UP</li> <li>後援会による支援実施</li> <li>第三者評価者の学校行事参観</li> <li>教職員防災研修 実施</li> <li>全定間の連絡調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート回収率13.6%(前年比4.6%増)。(△)</li> <li>振興会会員の行事来校者数は横ばいであった。(△)</li> <li>後援会からの部活動支援費5%アップ。(○)</li> <li>学校協議会を6・11・2月に開催し、授業見学等を実施した。文化祭等の参観もしていただいた。(○)</li> <li>教職員のみを対象とした防災研修は諸般の事情により実施できなかった。(△)</li> <li>教職員及び生徒を対象に年2回実施の避難訓練の内、1月に夜間の地震・停電を想定した防災訓練を実施した。(○)</li> <li>施設・設備に係る会議を2回実施した。停電時に使用する懐中電灯を教室に設置することを提案し、承認された。来年度当初に設置される。(○)</li> </ul>